

ShiseiCam

カメラの前に立つだけのマーカーレス姿勢計測システム



概要

仕様

構成・価格

ShiseiCamは、Microsoft社の3Dセンサー「Kinect」を用いた、マーカーレスの姿勢計測システムです。

姿勢が一目でわかる

撮影後、すぐにシンプルで分かり易い結果レポートを出力。レポートには、お勧めのストレッチも掲載されます。

表



- ・ **姿勢**チャート
- ・ **せ**なかの傾向

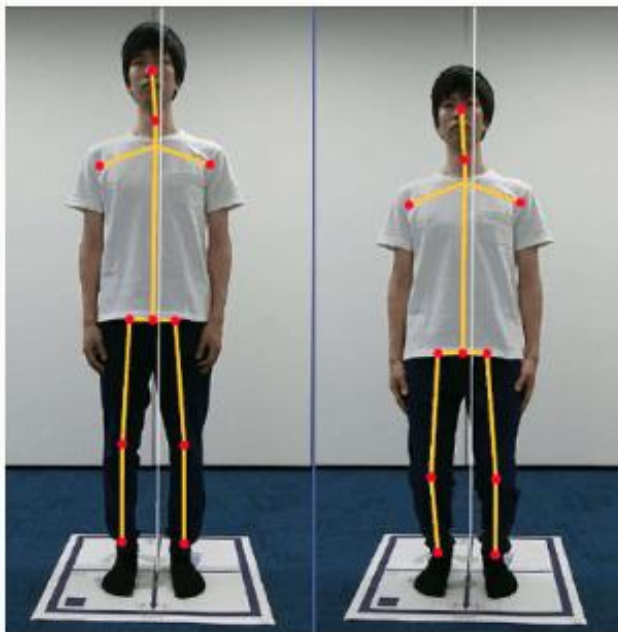
- ・ **筋肉**の傾向
- ・ **推奨**ストレッチ

裏



マーカレスで骨格情報を取得

カメラが人を“自動認識”するため、カメラの前に立つだけで体の歪みやねじれを短時間で計測できます。



操作が簡単

マットの上に立ってもらい、4ポーズ（正面、屈位、側面、反面）を撮影するだけ。ナビゲーション付きの画面で、誰でも簡単に操作できます。

- ① カメラの前に立つ → ② 4つのポーズを撮影 → ③ 結果を確認



ここまで
たったの
1分間

豊富なレポート出力項目

■ せなかの傾向

姿勢のタイプ（猫背、反り腰、フラットバック、正常）を判定します。

タイプ別の対策をアドバイスします。

Point

脊柱のラインも表示します。

反り腰タイプ

常に腰を反った姿勢で生活しているため、腰痛になりやすくなります。また、同様に股関節痛を招く原因の1つにもなります。腰を反る動作が多いスポーツをする方は注意しましょう。

対策としては脚の付け根の筋肉のストレッチと背骨のストレッチをすると負担が軽減します。



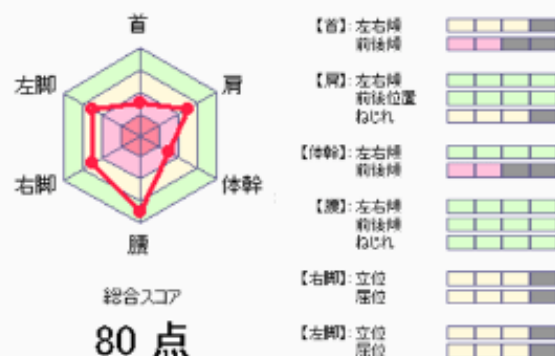
■ 姿勢チャート

14項目の指標を基に姿勢を採点します。

ゆがみの傾向が一目でわかります。

Point

チャートが内側に入るほど、ゆがみの疑いがあります。



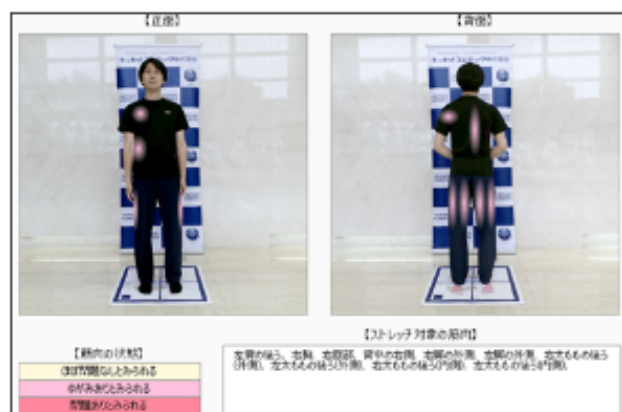
■ 筋肉の傾向

姿勢から推定される筋肉の状態を可視化します。

ストレッチの必要な箇所が一目でわかります。

Point

ゆがみの患部（筋肉の収縮）をゆがみの度合いに応じて表示します。



■ 推奨ストレッチ

個々のゆがみに合わせたストレッチを提案。

写真付きの説明で、やり方を忘れることもありません。

Point

レポートを見ればすぐにやり方が分かるので、日々の継続的なストレッチが期待できます。

■ ハムストリングス（腿の後ろ）ストレッチ



■ 計測結果

骨盤が後ろに傾いている。

■ 考えられる原因

ふとももの後ろの筋肉の緊張。

■ ストレッチのやりかた

① 仰向けの姿勢をとり、下している足は伸ばした状態で、上げている腿は軽く膝を曲げ、両手を膝の裏側を支える。

② ゆっくりと上げている腿を伸ばし、自分の胸に脚を近づけていき、左右両方行う。